

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	YH	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	4 年	派遣国	トルコ
派遣大学	中東工科大学		
期 間	2025 年 9 月 22 日～ 2026 年 6 月 19 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 (4 人部屋)					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (32000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩 (バス)) で、約 (20 (5)) 分 *大学までの 所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	40000 円	
学用品購入費	0 円	
交通費	10000 円	バス
交際費	20000 円	旅行・観光・交際費
その他	20000 円	寮費・通信・衣類等・医療費
合計	90000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

大学内は野良犬など野生動物が多い。今年度は学生グループによってよく管理されており襲ってくる事などはなくむしろなでると喜ぶが、最低限注意は必要。

アンカラ市内では、クズライ中心部は夜間でも危険ではないが、100yil 一部地域などは暗くなってから出歩くと危険。

基本的にキャンパス内は安全であり、キャンパス外も治安は良い。助けを求めれば英語は通じないが誰でもすぐ助けてくれる。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(103, 930) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	GIG SIGORTA		
加入期間	(12) ヶ月間	保険料	(917) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**アンカラ**)

トルコの首都。人口約 570 万人。

アンカラ市内やトルコの他の市に行く際はアンカラの中心部である kızılay から行くのが良い。カフェやショッピングモール、飲食店や雑貨など様々なものも買うことが出来る。

大学からはバスかメトロで市街に出ることが出来る。クレジットカードで乗れるが、バスとメトロ両方で使えるカードを作った方が得。

物価は野菜や肉など自炊するなら日本より安い、大学内のスーパーはあまり新鮮ではない場合も多い。賞味期限切れの乳製品なども普通に売っている為注意が必要。カフェやレストランは日本と同程度の値段。インフレーションが激しくどんどん値上がりしている。

基本的に大学内でも教授と学生以外は英語が通じない。寮や銀行などの手続きもトルコ人や ESN の手を借りた方が良い。アンカラ市内も稀に英語が出来る若者はいるが、ほとんど英語は使えない。病院は外国人を助ける部署がある場合があるため、聞いてみると良い。

【学業編】

1. 大学情報

大学	中東工科大学	所在地	
最寄空港	エセンボーン空港	空港からの距離	37 km
空港⇄大学	(クズライまでバス、クズライからバスマまたは電車) *移動手段		
学生数	23000 人	留学生数	2000 人
学部	建築学部 工学部 人文科学部 教育学部 経済・行政科学部 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	経済・行政科学部 国際関係 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			Russian History	Middle East in World Affairs	Turkish Politics and foreign policy
午後		Intermediate Level of Turkish	History of Religion in Asia		Politics of international migration

② (2)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			International Private Law		
午後	Medieval European History	Social History of Cold War			

3. 履修内容

科目	Intermediate Level of Turkish		
履修期間	秋学期	単位数	5
授業内容／形態	初級トルコ語 複数回の小クイズと中間・期末テストで成績が付く。 教科書を見ながら先生が授業を進める。 毎週 50 単語程覚える。		
成績	BB		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Russian History		
履修期間	秋学期	単位数	6
授業内容／形態	先生がスライドで授業を進める。ロシアへの最初の人類の定住から 17 世紀程までのロシアの歴史を学ぶ。成績は中間・期末テストと出席。		
成績	CC		
YCU 振替予定	科目	ロシア・東欧の歴史	
	単位数	2	
	担当教員	梅津紀雄	

科目	History of religion in Asia		
履修期間	秋学期	単位数	6
授業内容／形態	先生がランダムに話す。シラバスはあるが内容は先生の気分によってだいぶ変わる。トルコ語で話している時間も多し。映像資料も使用。留学生の場合ほぼ確実に先生から毎授業話を聞かれる。成績は中間・期末テストで学期の初めに送られる資料の中から特に教授本人が執筆した論文中心から出題。		
成績	CB		
YCU 振替予定	科目	宗教論	
	単位数	2	
	担当教員	吉村均	

科目	Middle East in World Affairs		
履修期間	秋学期	単位数	6
授業内容／形態	ディスカッション形式だが、先生が話している時間が多い。中東の歴史について第一次大戦前から現在まで詳しく学べる。課題がかなり多め。3.4個のレポート課題と中間試験・グループプレゼンテーションで成績が付く。		
成績	CC		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Turkish Politics and foreign policy		
履修期間	秋学期	単位数	6
授業内容／形態	先生がずっと話す形式。毎回出席することが大事。かなり英語が訛っており聞き取りづらく、トルコ語も多く使用している。プレゼンテーションと期末試験で成績が付く。プレゼンテーションはトルコ語の資料しかないトピックであるため、留学生は別にトピックが用意される。トルコの歴史上人物や歴史的政党など理解していないと授業に追いつけない。		
成績	CC		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Politics of international migration		
履修期間	秋学期	単位数	6
授業内容／形態	ディスカッション形式。移民、難民などについて基本的な知識やトルコ、EU 各国、アメリカ、カナダなど主要国の例を見ながら学ぶ。先生が留学生に対しかなり配慮してくれる。成績は小レポート、中間・期末テスト。テストはマーク式。		
成績	AA		
YCU 振替予定	科目	国際移住論 B	
	単位数	2	
	担当教員	坪谷美欧子	

科目	Social History of Cold War		
履修期間	春学期	単位数	6
授業内容／形態	映像資料などを多く使い冷戦を文化や情報の面から学ぶ。成績は中間・期末テスト、また生徒同士のディスカッションとして、事前に配られる資料から質問を考え、また受け答えする必要がある。		
成績	DD		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	International Private Law		
履修期間	春学期	単位数	6
授業内容／形態	基本的に講義形式だが、よく学生に質問も来る。トルコ語訛りが強くすこし聞き取りづらい。また、クラスのワッツアップグループがあり、それを通じて授業の中止やオンラインの連絡があるため参加する必要がある。成績はテストとレポートが期末にある。		
成績	AA		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

全体的に様々な人とたくさんのつながりを持つことが出来た、とても良い体験だった。留学生は留学生同士で仲良くすることが多かったが、私は二学期いたことと、トルコ人の性格が自分にあっていたのかトルコ人の友達も大勢作ることが出来た。休みの日には彼らの実家に泊まりに行くなどして、様々な県の文化を知ることが出来た。トルコは地理的に多くの場所からの人間が混ざり合い、人種もさまざまである。国土も広く、ヨーロッパのような雰囲気を持つ場所や、ロシアのような場所、また、アラブに近い雰囲気のある場所など多様であった。しかしながらどの場所に行っても彼らは自分がトルコ人であるというアイデンティティを強く持ち、自分たちの地域の文化を守る以上にトルコ人としての誇りというものを前面に出して生きていることを強く感じた。よくトルコはヨーロッパかアジアかなどのような質問をされたが、この質問にはトルコはトルコだと答えるのが正解である。それだけ彼らはトルコ人であることに誇りを持っている。歴史的に、オスマン帝国が終わり他の地域が欧米諸国によってばらばらになり争いに巻き込まれてきた中で、現在も四方を戦争中の国に囲まれ生き延びていくために、そういった誇りや団結が必要なものの一つに入っていたのだろうと思う。一方で、特に若者の現政権への反発は凄まじく、頻繁にデモなどを行っている。独裁ともいえる現状であるが、学生たちはみな政治への興味関心をもち、政治への参加を非常に大事に考えている点が素晴らしいと思う。しかしながら政府への不信感や急激なインフレーションにより未来に対して少々暗く捉える学生も多い。日本も物価高などや地球温暖化などいろいろと心配事を口にする学生が多いが、政治に対して意見を出し合い行動していく点が日本とトルコの大きな違いだと感じた。

また非常に興味深かった点としては、宗教との関わり方が挙げられる。大学の学生でムスリムであるのは半数以下と考えられ、その中で女子学生で髪を隠している者はさらに少ない。多くの学生の親はムスリムであり、学生たち、特に女子は大学進学でアンカラに来て生活する中でスカーフを外すか、飲酒するか、ムスリムであることを辞めるか、また、ムスリムであり続けるかなどを自分で決める。実際に来て人々が同宗教と向き合っているのか見て、話を聞くことができたのはとても貴重な経験だった。

勉強面では、自分に深い知識がないと思い知らされた。国際関係学部と歴史学部の授業を取ったが、私は高校が理系で歴史の授業を取っていなかったことに加え、横浜市立大学では様々な授業を取れる反面、知識を深く掘り下げていくことはあまりしない。中東工科大学では 1 つの授業に横市の三倍の時間が割かれ、次の学期に引き継いで学び続けていく部分も多いため、専門的な知識が定着しているように思われた。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

実際に文化の違いを経験して様々なバックグラウンドの人と話すことで自分の世界が広がり、考え方がより柔軟になったと思う。将来的に、日本だけでなく海外でも働けるといいと考えている為、世の中には膨大な自分の知らないことがあるという事を常に念頭に置いて人と関わっていけるようにしたい。また、友人たちから日本のことについてたくさんの質問を受け、自分も意外と日本のことをよくわかっていないという事に気付かされた。今後は自分自身の文化についても学び、理解して尊重していく姿勢を大事にしたい。

最初にトルコに着いた際は英語が授業に参加し、人と交流するのにまったく足りないレベルだったが、一年間の生活を通じて日常会話など満足のいく程度には上達することが出来た。トルコ語も、あいさつや買い物などは不自由なく出来るようになった。日本でも英語を忘れずさらに学び続け、また他の言語を学ぶ際にも役立てていきたい。

なにより今回得た友人たちと交友関係を続け、様々な文化とのつながりを深め続けていきたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

トルコはみんな優しく、誰もが暖かく迎えてくれるとても良い国である。政治宗教についての話題も禁忌ではなくむしろあちらから降ってくることも多いので話すのは大丈夫。

授業選びはトルコ人の同じ学部の生徒を見つけられたら相談した方が良い。先生によってトルコ語訛りが強すぎたり、半分以上トルコ語を話したりする人もおり、授業がなかなか理解できない。また、学年によって授業の難易度が明確に変わるため、英語力やその分野の知識に自信がない限りは自分の学年より上の授業を取ることは避けるべきである。

International corporation office はメールを書いても返信してくれることはないため、滞在許可証や履修登録など何か不都合があったらオフィスまで行くべき。対応も遅いため、4, 5 日たって何も連絡がなければ何度でも出向いて催促する必要がある。

食事は大学のカフェテリアが一番安い、予算が少ないため独自の創作料理を出す日もあり、味が悪い時もある。現在は改善したが、以前は食中毒になる学生もあり、毎食の利用は油や砂糖の量から考えてもお勧めしない。トルコ人学生はよく使用するので仲良くなる場所としては良い。